

Ai センター

■ スタッフ

| | |
|-------------|-------|
| 科長（センター長） | 兼児敏浩 |
| 副科長（副センター長） | 中塚豊真 |
| 専任助教 | 久保岡牧子 |

■ Ai と Ai センター

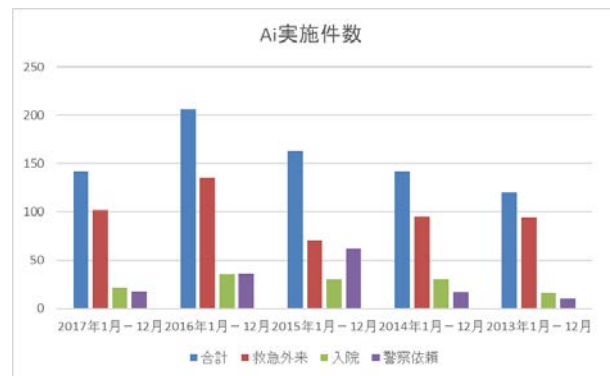
当センターは平成21年9月に中央部門として設立されました。当院におけるAi（オートプシーイメージング、死亡時画像診断）は、平成15～17年ごろから救急部門を中心に開始され、平成18年（2006年9月）には医療の質・倫理検討委員会において推奨される院内での公式のシステムとなりました。その後、Aiの社会的ニーズの高まりを受けて、Aiの質を高め、外部からの要請にも対応が可能なように、独立したセンターとして設置されたものです。中央放射線部が主体となって運用されていますが、Ai症例検討会を開催するなど、組織横断的な活動も行っています。

Aiは死亡時にCTを中心とした画像診断を行い、死因究明の一助とする方法ですが、非外傷死の3割程度、外傷死のほとんどの事例で死因の推定が可能となるといわれています。また、よりの確な死因究明に貢献するだけでなく、医療施設で亡くなった方については診療行為関連死に関連する調査、医療施設以外で亡くなった方については事件性の有無に関係する調査においても威力を発揮します。当院はAiの先進的な施設として、また、国立大学附属病院における草分けとして、積極的にAiに関わってきており、Ai学会によって、Ai認定施設（施設A）に認定されています。

■ 実績

近年のAi実施件数をグラフに示します（2013年1月～2017年12月）。実施件数は2016年までは年々増加し、2017年はやや減少しています。2017年は合計142件となっています。

また、医療施設外の死亡事例に対する警察関連からの依頼に関しては、年によって件数にばらつきはあるものの、毎月あたり複数事例対応しており、2017年の実施件数は18件でした。



■ Ai 症例検討会

Aiの質の向上と現場への効率的なフィードバックを目的として、Ai症例検討会を毎月開催しています。警察関連からの依頼事例、病理解剖も実施された事例を中心に検討されますが、毎回多くの職種や他施設からの参加があり、学際的な検討が可能となっています。



Ai 症例検討会